向ヶ岡弥生町

News Letter

VOL.8　2014 年 4 月 1 日発行

鹿児島市立鹿児島玉龍中学修学旅行　向岡記碑の見学（2009 年 3 月 4 日　写真提供同校）

向岡記碑 が文京区の文化財に指定されました

向岡記碑の調査と保存修復

東京大学浅野地区情報基盤センター敷地にある徳川齊昭筆の向岡記碑は、水戸藩駒込邸庭園に建立された碑で碑文 638 字に、向ヶ岡（忍ヶ岡（上野の岡）の向う側の岡）の歴史、徳川家康以降の開発によって創出された江戸の景勝地と石碑建立の意義、駒込邸庭園の景観と弥生（三月）の向ヶ岡を詠んだ歌が記されています。明治 5 年（1872）、駒込邸跡地は碑文の「弥生」と「向ヶ岡」を合わせ「向ヶ岡弥生町」と名付けられます。明治 17 年（1884）、町内で発見された土器は、碑文由来の町名から弥生式土器と呼ばれ弥生時代の名称由来となります。明治時代以降、東京府用地、警視庁用地、陸軍省用地、浅野家敷地などを経て、碑は水戸徳川家、浅野家へ引き継がれます。徳川慶喜家に伝わる『烈公向ヶ岡碑文写』は徳川慶喜が浅野長勲に作成を依頼、碑文を記したもので、碑が大事にされていた事が分かります。浅野家の敷地は東京大学となり浅野地区と呼ばれるようになり、碑は東大の所有となります。『向岡記』（徳川ミュージアム所蔵）によれば、碑はタンデム加速器研究施設と理学部 3 号館東側の崖の突端辺りに建立されますが、研究棟建設で少なくとも 2 回移動しています。2005 年、碑は工学部 10 号館と液体窒素タンクの間、剪定木の仮置場にありました。碑文は全て残っているのを拓本で確認しましたが、寒水石（大理石　常陸太田真弓山産出）のため、碑の表面は酸性雨で溶け碑文は見えなくなり排気ガスにより黒く煤け、側面に隙間が出来ていました。考古学史、水戸藩研究にとって大切な碑を何とかしなければ、と思い碑の調査を開始しました。2007 年に日本石造文化学会の塩原都さん、書道家の横山淳一さん、表具師の垂水李さんが調査に参加、拓本と碑文の解読、歴史的背景について調査しました。武蔵野文化財修復研究所・府中工房が調査に参加、碑の保存修

復を訴えました。学内関係者の協力もあり「東京大学 130 周年記念事業　知のプロムナード」学内整備で碑の保存修復を行う事になります。保存修復は雨風の影響の無い場所への設置を前提に、寒水石の風合いを失わない事に留意しつつ、修復作業場への運搬に耐えられるように行いました。設置作業は日本石造文化学会、武蔵野文化財修復研究所、府中工房、加藤建設、小林石材工業、セキオカヒロユキデザイン、株式会社マルモと大学の担当者と協議して進めました。2008 年 8 月 8 日保存修復と設置終了。その後、書道家で古典研究者の飯村博さんが研究に参加。碑文を再検討し、臨書を作成しました。東日本大震災では碑を固定しなかった事が幸いし破損はなく、震災直後の東京大学総合研究博物館春季企画　特別展示「弥生誌　向岡記碑をめぐって」では東京大学から向ヶ岡弥生町の歴史を全国へ発信しました。

文京区文化財指定の経緯と調査

平成 2013 年 6 月 12 日に開催された、第 6 回文京区教育委員会定例会で「向岡記碑」の区指定文化財について文京区文化財保護審議会へ諮問が行われ教育委員会からの諮問を受け、文京区文化財保護審議会が 4 回行われ、審議会から「向岡記碑」の区指定文化財への指定について建議（答申）がなされました。碑を所有している東京大学から同意を得て文京区教育委員会定例会で「向岡記碑」の区指定文化財への指定決定、3 月 1 日に告示されました。碑は「向岡記碑」（むかいがおかのきひ）の名称で指定されました。

文京区教育委員会告示第十四号
文京区文化財保護条例（平成四年三月文京区条例第二十八号）第四条第四項の規定に基づき、次のとおり文京区指定文化財を指定した。
平成二十六年三月一日
文京区教育委員会　印
一　指定文化財の種別　　有形文化財（歴史資料）
一　指定名称　　向岡記碑
一　指定年月日　　平成二十六年三月一日
一　所有者　　国立大学法人東京大学
一　所在地　　文京区弥生二丁目十一番十六号

これまで碑の建立年代は碑文の文政 11 年（1828）とされてきました。齊昭は藩主就任前の部屋住み時代でこの立場で碑を建立する事ができたのかどうか疑問視していました。昨年、文京区教育委員会の町田聡さんの調査で、齊昭の兄で第八代水戸藩主 徳川齊脩が支藩の守山藩上屋敷に建立した漢詩碑と向岡記碑の石材は、文政 10 年（1827）に常陸太田から小石川邸に持ち込まれ後に碑が建立された事がわかり、齊昭が初めて碑文を記した碑という事がわかりました。

今後の課題

保存修復から 7 年を経過、今後は保存状態の確認、碑の全面で確認された排気ガスと考えられる黒い汚れのクリーニングも必要でしょう。碑は震災を乗り越えましたが、今後の地震による破損に備えた 3D 測量も検討しています。

大正時代の向岡記碑　東京市役所公園課編纂
1922『東京市史蹟名勝天然記念物写真帳』より

向岡記碑　関連年表

年代	事項
元和 8 年(1622)	水戸藩、下屋敷拝領(後の中屋敷)
文政 11 年(1828)	同 13 年までに徳川齊昭筆、向岡記碑建立
文政 12 年(1829)	徳川齊昭　第九代水戸藩主に就任
明治 2 年(1869)	明治政府駒込邸を公収
明治 5 年(1872)	東京府、駒込邸跡に「向ヶ岡弥生町」命名
明治 17 年(1884)	弥生時代名称由来土器の発見
明治 20 年(1887)	浅野侯爵邸
昭和 16 年(1941)	浅野家移転
昭和 23 年(1948)	浅野邸跡地、東京大学敷地となる
昭和 40 年(1965)	弥生町町名問題(ニュースレターVol.7 参照)
昭和 50 年(1975)	文学部考古学研究室、理学部人類学教室による弥生二丁目遺跡の調査
昭和 51 年(1976)	弥生二丁目遺跡の国史跡指定
昭和 61 年(1986)	向ヶ岡弥生町会有志「弥生式土器発掘ゆかりの地」碑建立
平成 17 年(2005)	向岡記碑の調査開始
平成 18 年(2006)	文京ふるさと歴史館特別展「徳川御三家江戸屋敷　発掘物語　水戸黄門邸を探る」
平成 19 年(2007)	向岡記碑の共同研究開始、『向陵彌生町舊水戸邸繪図面』発見
平成 20 年(2008)	東京大学 130 周年記念事業「知のプロムナード」に伴う学内整備事業で向岡記碑の保存と設置終了(8 月 8 日)、茨城県立歴史館特別展「幕末日本と徳川齊昭」開催
平成 23 年(2011)	東日本大震災による向岡記碑の破損なし、東京大学総合研究博物館春季企画　特別展示「弥生誌　向岡記碑をめぐって」・松戸市戸定歴史館企画展「徳川昭武の屋敷慶喜の住まい」開催
平成 24 年(2012)	茨城県常陸太田市真弓町　真弓山寒水石鉱山・真弓神社の調査
平成 25 年(2013)	文京区教育委員会による向岡記碑の調査
平成 26 年(2014)	文京区指定文化財指定告示(3 月 1 日)

保存前の碑（2007 年 3 月 9 日）

横山淳一さんによる手拓作業（2007 年 3 月 19 日）

垂水李さんによる拓本の表装

武蔵野文化財修復研究所・府中工房による保存修復作業
（2007 年 11 月 27 日）

小林石材工業によるコンクリート基礎の除去（2008 年 2 月 14 日）

港区賢崇寺で保存修復を終えた碑 （2008 年 4 月 22 日）

碑の設置（2008 年 8 月 8 日）

茨城県常陸太田市真弓山の寒水石鉱山（2012 年 12 月 23 日）

今年度の文京区指定文化財は向岡記碑の他、徳川斉脩の漢詩碑（有形文化財（歴史資料））、徳川慶喜終焉の地（史跡）の水戸徳川家に関連する2件も文化財指定されました（指定は、徳川斉脩、徳川慶喜の表記で指定）。

徳川斉脩の漢詩碑は筑波大学構内（文京区大塚3丁目29番1）、正門を入ってすぐのところにあります。碑は向岡記碑と同じ常陸太田真弓山の寒水石製です。大学構内は水戸藩の支藩守山藩上屋敷跡で、構内の東側にある森は青山の池田邸、溜池の黒田邸と共に、江戸三名園として知られていた占春園跡です。現在、名園の名残は残念ながらありませんが、池と延享3年（1746）に建立された占春園碑が残っています。徳川慶喜終焉の地は明治時代、第15代将軍　徳川慶喜の住んだ小日向邸跡で、現在は国際仏教学院構内（文京区春日二丁目8番9）になっています。構内のイチョウは小日向邸にあったものです。

徳川斉脩の漢詩碑（2014年2月15日）

徳川慶喜終焉の地（2014年3月5日）

【新聞記事から】

東京大学浅野構内の国指定遺跡　弥生二丁目遺跡が読売新聞で紹介されました。清岡央記者の記事を掲載します。

日本史を歩く　＊弥生町遺跡　東京都文京区
弥生式土器の1号

時代名の由来にもなった弥生式土器第1号は、1884年、当時の向ヶ岡弥生町（現在の文京区弥生）にあった向ヶ岡貝塚で発見された。だが、発見場所の正確な位置は、その後の建つ地下の中でわからなくなった。今では、東京大学の敷地内外に、5か所も候補地があり、研究者の議論が続く。工学部の一角、「弥生二丁目遺跡」として国史跡に指定されているのも、そのうちの一つだ。

指定の根拠は、1975年に行われた発掘調査の成果だ。当時、東大考古学研究室の助手として発掘に加わった渡辺貞幸・出雲弥生の森博物館館長によると、前年、遊んでいた小学生が土器片を拾った事から、「遺跡があるのでは」と目していたところ、大学施設の建設計画が持ち上がった。掘ると果せるかな、1号土器と似た弥生時代後期の土器が出土し、大集落の環濠を思わせる溝や、貝の堆積が見つかった。

各候補地を回ると、周辺が当時から台地上の一等地だっただろう事がよく分かる。渡辺館長は言う。「1号土器の真の発見場所がどこかより、東大の下に弥生遺跡がきちんと残っていると確認でき、保存の道を開いた事こそ発掘の意義だった」（清岡央）

◇東京メトロ南北線東大前から徒歩5分。

読売新聞朝刊文化面（2014年2月26日）

編集後記

2005年、碑の調査を開始。最初に拓本を取りましたがとても見せられるものではなく、困っていたところ、大学の広報センターの細谷さんから連絡が入り、碑の拓本を取りたいという塩原さんを紹介されました。2007年3月19日、強風の中、段ボールを風よけにして横山さんが拓本を取り、その後、垂水さんが掛け軸に仕立てました。寒い中での保存処理作業も忘れられません。保存修復は、塩原さんが広報センターに出入りしていなかったら実現できなかったでしょう。1999年の遺跡公開から始まった浅野地区の見学会参加者の合計は現在2,329名になりました。これからも碑を大事にしてもらえるよう公開と研究、東京都指定文化財へ向けた運動を続けて行きたいです。

向ヶ岡弥生町

News Letter

VOL.8　2014年4月1日発行

発行　原　祐一

連絡先　〒153-8904

東京都目黒区駒場4-6-1　東京大学埋蔵文化財調査

携帯　080-5504-9782

メール　y-hara@dolphin.ocn.ne.jp

印刷　株式会社　芳文社

〒194-0037

東京都町田市木曽西2-3-14　電話　042-792-3100